

奥州市モバイルクリニック（遠隔診療サービス）事業概要

TOHOKU DX GATEWAY 2024 奥州市健康こども部健康増進課

事業概要

本事業は、オンライン診療専用の医療機器等を搭載した専用車両を患者宅や集会施設等に配車し、オンラインにより医師の診察を受けられる体制を整備することで、通院が困難な患者の医療受診機会の確保につなげるとともに医師の移動時間の削減により医療資源を効率的に活用した持続可能な地域医療提供体制の維持を実現する。

車両内において看護師が診察補助を行い、デジタル聴診器や心電計等により患者の心音や心電図をオンラインで遠隔地にいる医師に伝達する。山間地において受診率が低い健康診断等にも活用を予定している。



奥州市モバイルクリニック（遠隔診療サービス）事業概要

地域課題と期待する事業効果

- ・令和5年度にサービスの提供を開始した衣川地区における高齢化率は43.9%（市全体35.7%）、高齢者のうち在宅ひとり暮らし老人が占める割合は11.5%で、その増加率は前年比で5.03%であり、通院時に公共交通機関や家族の送迎に頼らなければならない住民の通院にかかる負担が課題となっている。
- ・現在、中山間・過疎地域への移動診療車による医師派遣を民間医療機関へ委託し実施しているが、近年、医師の確保が困難なことによる休診が生じており（休診回数15/90回）、委託先から医師不足による診療日数の削減の要望が出されるなど、医師不足や高齢化が進む中、中山間・過疎地域における安定的な医療体制の確保が喫緊の課題となっている。
オンライン診療により医師の移動に係る時間負担をなくし、より多くの患者の診察を可能にすることで、効率的な医療資源の活用を図りたい。
- ・衣川地区における長寿健康診査の受診率が23.5%（市全体42.6%）と低いことが課題となっており、医療機関へのアクセスが不便なことが原因の一つだと考える。遠隔診療サービスにおいて診察だけではなく健康診断も実施することで、受診機会を増やし受診率向上を目指したい。
- ・デジタルツールを敬遠しがちな高齢者に対し、同乗した看護師による操作、指導を伴った診療を受けてもらうことで、オンライン受診への安心感を高め、その利便性を実感してもらうことにより、高齢化が進む地域においてデジタル親和性が高い地域を構築したい。
- ・市内の産婦人科医の高齢化（平均年齢66.7歳）や廃業が課題となっており、令和4年4月から市内に分娩取扱施設が無い状況となっている。妊婦健診についても、今後、市内で受診できなくなる可能性があり、その場合、20km以上離れた周産期医療センター等へ妊婦健診のために約15回通院する必要がある。遠距離にある産婦人科医院とのオンライン妊婦健診の環境を整備することで、長距離通院の回数を減らし妊婦の負担とリスクを低減したい。

医療資源が不足している地域においても、身近な場所で必要な医療を効率的に受けることができる体制をつくることによって、住み慣れた地域で暮らし続けることができる環境を創出する。

奥州市モバイルクリニック（遠隔診療サービス）事業概要

令和5年度事業費

【歳出】49,451千円

(1) 報償費（アドバイザー謝礼）	581,400
(2) 旅 費（アドバイザー費用弁償等）	217,280
(3) 委託料	43,044,276
①システム開発費	3,608,000
②運用支援費	10,703,000
③車両調達費	17,214,076
④医療機器等調達費	10,694,200
⑤運行管理システム利用料	825,000
(4) 病院事業会計負担金（人件費等）	5,608,000

【歳入】デジタル田園都市国家構想交付金 21,863千円
過疎債（ソフト事業） 5,400千円

※令和6年度予算額（歳出）25,708千円
運用支援委託料15,708千円、病院事業会計負担金10,000千円)

実施体制等

【事業推進体制】

- ・ 未来羅針盤課（市長直轄PJ）…仕様検討、全体調整
- ・ 健康増進課…仕様検討、全体調整、予算執行
- ・ 医療局…仕様検討、診療体制の構築、車両運行・診療の実施

【運行時人員体制】医療局衣川診療所

- ・ 医師1名、専任看護師1名、運転手1名、事務職員1名



奥州市モバイルクリニック（遠隔診療サービス）事業概要

令和5年度事業スケジュール



中長期運行計画

